

## 新型コロナウイルスワクチンの小児(5-11歳)への接種について

### 小児の新型コロナウイルス感染症はほとんどが軽症だが、感染例が増えている

これまでの新型コロナウイルス感染症による重症例や死亡例の多くは基礎疾患のある高齢者でした。小児のコロナウイルス感染症の症状は、ほとんどの場合、軽症でいわゆる風邪や胃腸炎症状です。季節性インフルエンザと比較して、少なくとも小児においてはインフルエンザの方が重症化率/死亡率ともに高いです。現在流行中のオミクロン株はデルタ株などに比べてさらに症状は軽症ですが、感染力が極めて強いことが特徴です。しかし感染者数が増加すれば小児も含めて感染者の一部は重症化する可能性があるため今後も引き続き油断はできません。

### 長期的な副反応は不明で、オミクロン株に対する感染予防効果はあまり期待できない

メッセンジャーRNA ワクチンは、今回初めてヒトに対して使用されたワクチンです。3週間隔で2回接種することで、感染予防に十分な抗体価の上昇を認めます。しかし短期的な副反応として、従来の他のワクチンと比較して、接種部位の腫れや痛みだけではなく、接種後の発熱、頭痛、倦怠感などの全身性の副反応が多くみられ、特に年齢が若いほど副反応発症の割合が高いことがわかっています。非常に稀ですが、心筋炎/心膜炎の重大な副反応があります。長期的な副反応はヒト(特に小児)への接種後短期間しか経過していないため、現時点では不明です。また3回目接種がすすんでいる諸外国でオミクロン株の感染拡大がみられることから、現状のコロナウイルスワクチンでは感染予防効果(感染しない/他人にうつさない)は低下していると考えられます。くわえて、小児のオミクロン株に関するワクチン接種後の重症化や入院率の低下などのデータはありません。

以上現時点で本院としては、重症化リスクがあるお子さんは、ワクチン接種で感染による重症化を予防することが期待されますので接種をお勧めしますが、健康なお子さんには、ワクチン接種の必要性は低いと考えます。これからの流行状況などをしっかり見たうえで、お子さんと保護者がメリットとデメリットを十分理解することが大切です。注射が好きなお子さんはいません。嫌がるお子さんを無理やりではなく、しっかり時間をかけ話し合ってから接種すべきかどうか判断してください。お子さんたちを守るためにまずは周りの大人(保護者の方や学校や園の先生など)がワクチン接種を済ませることが重要であることは言うまでもありません。

#### <重症化リスクがあるお子さん>

先天性心疾患、慢性呼吸器疾患、脳性まひなどの神経疾患、染色体異常、小児がんなどの治療で免疫が著しく低下しているお子さん、高度の肥満など